

自主避難計画

当町内会では、住民全員が**雨の量**や**周辺の様子**に注意し、地域で避難開始を判断して住民全員で避難する仕組みをつくりました。以下の項目をみんなで実践しましょう。

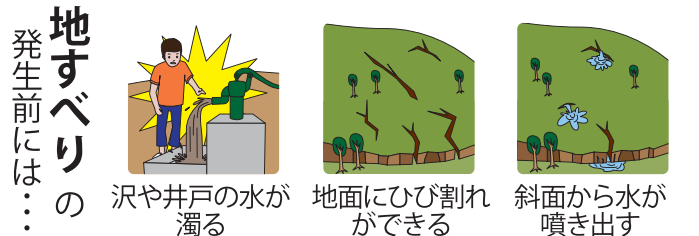
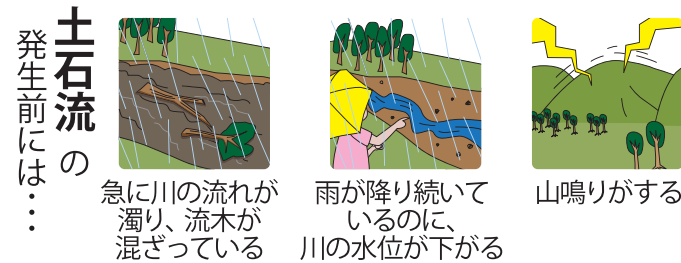
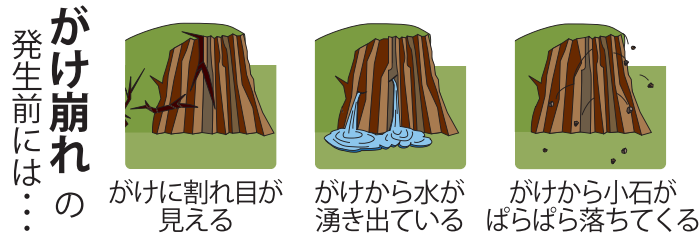
！雨量に注意する習慣をつけましょう

気象予報などを見るときには、雨量にも気を配る習慣をつけましょう。自宅周辺の雨量を測ることで、自宅周辺の土砂災害の危険の高まりを把握しやすくなります。右図の雨量が土砂災害発生危険が高まる目安とされています。



高さ10cmのカップ酒の瓶を使うと風で倒れにくく便利です

！前ぶれ（予兆現象）に注意しましょう



この他にも・・・

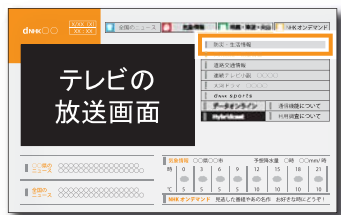
- 地鳴り、木根のちぎれる音、岩の割れる音などがする
- ものの腐ったようなにおい（腐葉土、下肥のにおい）がする
- 小動物が異常行動（騒ぐなど）をとる など

！情報を積極的に収集し、避難対応に活用しましょう



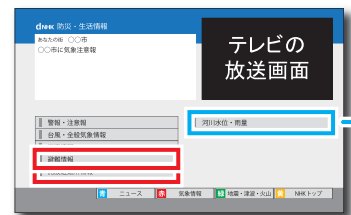
データ放送での確認方法 地デジテレビでNHK（地デジ1ch）を選択し、リモコンの**d**ボタンを選択

① 防災・生活情報を選択



（テレビ画面イメージ図）

② 確認したい情報を選択



（テレビ画面イメージ図）

③ 河川の水位・雨量を確認



（テレビ画面イメージ図）

① 日頃からやっておくこと

- 洪水・土砂災害緊急避難地図（中面）を参考に、**大雨が降ると確認されるいつもと違う現象**や、自宅周辺の**比較的安全と思われる場所や建物**、**避難経路**、**住民間の連絡方法**を確認しておきましょう。
- カップ酒の瓶などを用いて、雨量を計測する習慣をつけておきましょう。

② 雨が降り始めたら、自宅周辺の状況に注意を払う

- 土砂災害が起こる目安の雨が降っていないか、家の外の様子を確認しましょう。（※1時間に20mm、連続雨量で100mmの雨で土砂災害が起こりやすいと言われています。）
- **自主避難の基準** となる現象が起きていないか、自宅周辺の様子を確認しましょう。



③ 自主避難基準に達したら、町内会役員等に報告し、それぞれがすぐに避難対応！ →状況を共有して町内会みんなで避難対応！



自主避難基準 以下のような状況になったら、自主避難を開始してください。

- **自主避難の基準** が確認された場合（洪水・土砂災害緊急避難地図を参照）
- 地域内のがけや沢で土砂災害の予兆現象（裏表紙に示す現象）が確認された場合
- 釜石市役所が“避難準備・高齢者等避難開始”、“避難勧告”、“避難指示（緊急）”を発令した場合

※上記以外の状況でも避難が必要と思う状況になった場合や、台風接近などで早い段階で大雨が予想される場合においても、身を守ることを第一に考えた避難対応をしましょう。

いざというときの避難対応

遠くまでの避難が困難な場合には、周辺の様子に注意して、身の安全を第一に考えた対応をとってください。

→ **比較的安全と思われる場所や建物**へ避難

なお、すでに道路が冠水しているなど、移動に危険が伴う場合は、

→ **がけや沢から少しでも離れた頑丈な建物の2階以上**へ避難

※このような状況になる前に避難を決断することが重要です



※この計画は平成29年10～12月に実施した「洪水・土砂災害に対する警戒避難体制の整備支援事業」を通じて、大只越町町内会・桐ノ木沢町内会として検討したものです。

洪水・土砂災害緊急避難地図

大只越町町内会・桐ノ木沢町内会

現在の技術では正確な雨量予測や災害発生地の特定が難しいため、避難勧告等に依存しすぎず、**地域住民自らで危険に気づき、いざというときに避難の判断につなげる**ことが大切です。

住民懇談会で把握した情報

- 比較的安全と思われる場所や建物
- 自主避難の基準
- 大雨が降ると確認されるいつもと違う現象
- 過去に発生した災害
- その他の事柄

土砂災害の危険性

(岩手県砂防基礎調査結果および土砂災害対策検討図に基づく)

- 土砂災害の危険性が**特に高い**区域 (急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)・土石流)
- 土砂災害の危険性が**高い**区域 (急傾斜地(がけ崩れ)の崩壊)
- 土砂災害の危険性が**高い**区域 (土石流)

机上調査での結果を示しています。そのため、現地調査の結果によっては、範囲が修正となることがあります。

洪水ハザードマップ

(甲子川浸水想定区域図に基づく)

